

2.4 特別支援教育における ICF-CY チェックリスト開発の試み －学習上又は生活上の困難を把握するための分類項目の抽出を中心に－

教育支援部 主任研究員 徳永 亜希雄
平成 21 年度特別支援教育研究研修員 小林 幸子
(静岡県立中央特別支援学校 教諭)
のあ保育園 副園長 田中 浩二
教育支援部 総括研究員 松村 勘由
平成 21 年度特別支援教育研究研修員 加福千佳子
(青森県立弘前第一養護学校 教諭)

はじめに

「2.3」で述べた本研究所が実施した「特別支援学校における ICF 及び ICF-CY についての認知度・活用状況等に関する調査 (2009)」では、16 校の特別支援学校から「『ICF チェックリスト (独自に創意工夫したものを含む)』等により、ICF 又は ICF-CY の分類項目を活用している」と回答があげられています。具体的な活用例は本報告書事例編でも紹介していますが、初期のアセスメントに用いたり、既存の子どもの情報を「ICF 関連図」等で整理した後に、見落としした視点がないかを確認するために用いたりされており、その包括的な視点による実態や課題の整理、支援計画作成への有効性が指摘されています。このように、特別支援教育において ICF 又は ICF-CY (以下、ICF/ICF-CY) を活用する方法の一つとして、ICF/ICF-CY の項目を用いたチェックリストの使用が位置付きますが、その一方で、今後の解決されるべき課題の一つとして、特別支援教育に適した ICF-CY の項目のセットの開発が指摘されています (独立行政法人特別支援教育研究所, 2008)。

1400 項目を超える ICF の項目をそのままケースのアセスメント等に用いるのは現実的ではないため、WHO からはデータセット例 (障害者福祉研究会, 2002) や医療臨床用 ICF チェックリスト (WHO 著・独立行政法人国立特殊教育総合研究所訳, 2005b) が示されるとともに、目的別に項目のセットにしたコアセットの開発とそれを用いた取り組みが報告されてきました (Stucki et al., 2003)。しかしこれまで報告されている ICF の項目を組み合わせた項目のセットは、疾患別等の医療ベースのものが多く、特別支援教育にそのまま持ち込むにはなじみません。

また、ICF-CY では、ICF にさらに 200 項目以上が追加されているため、より工夫が必要と考えられますが、これまで、既存の医療臨床用の ICF チェックリストを一部修正して特別支援学校内で用いるチェックリストとして検討したり (川口, 2008, 高田屋, 2008,)、特別支援教育実践を念頭において ICF の項目を選択し、用語の変更を試みたりする取り組み (西村他, 2009) が報告されていますが、妥当な開発手続きが十分に明示されたものは見当たりません。

一方、上田ら (2003) は、リハビリテーションの分野において、ICF の項目を用いた評価の際、活動としての「第 5 章 セルフケア」から始めるような、分類項目の並べ方を工夫したり、活動の評価基準に他者からの介助の必要度を用いたりする取り組みを報告しています。特別支援教育

の分野でも、評価点を用いる取り組みが試みられてきましたが、基準の曖昧さや項目数の多さに伴う難しさへの指摘や使いやすくする創意工夫が行われてきました（徳永，2005；川口，2008）。ICF-CY ワーキンググループ議長を務めた Simeonsson et al (2003) も、ICF の評価点を用いて障害の状態を把握する提案を行っています。

さて、文部科学省（2009）は、特別支援学校学習指導要領解説書自立活動編において、ICF の概念的な枠組みについて紹介し、学校教育法の特別支援学校の目標及び学習指導要領での自立活動の目標の一部である「障害による学習上又は生活上の困難」について、ICF との関連でとらえることが必要であることを述べています。一方、ICF とは「生きることの全体像」（大川，2007）とされ、その分類は見落としなく全体像をつかむための一種のチェックリストとして役立つ（上田，2005）とされています。

これらを踏まえ、児童期を念頭に置き、ICF よりも分類項目が充実した ICF-CY の分類項目を用いたチェックリストは、特別支援教育を実践する現場において個々の学習上又は生活上の困難を把握するのに役に立つものと考えました。そこで、本稿では、実際の学校現場からの意見を反映させながら ICF-CY チェックリスト開発するための最初の取り組みとして、分類項目の抽出について検討することにしました。

1 目的

個々の「学習上又は生活上の困難」を把握することを目的としたツール：ICF-CY チェックリストの開発に向け、チェックリストの目的にあった項目を抽出するための根拠を得るため、ICF-CY 第2レベルの各分類項目について必要度を明らかにすることとしました。

2 方法

(1) 概要

ICF-CY 第2分類の合計 283 の分類項目（翻訳途中段階の仮訳使用）について、個々の「学習上又は生活上の困難」を把握するためのチェックリストの項目としての必要度等について、0 から 100 の線上に印を記入するビジュアルアナログスケール（以下、VAS）を用いた調査票を通して尋ねました。

(2) 調査対象

本研究所の ICF-CY 関連研究等にこれまで何らかの形で研究協力をしたことのある者や、本研究所職員が講師を務めた ICF-CY 関連研修に参加したことがある者等とその者の紹介者で、ある程度 ICF-CY について知識がある者を調査対象としました。

(3) 調査期間

2009年8～10月

(4) 調査内容

回答者、回答者が回答の際に想定した事例の基本属性及び各分類項目（心身機能、身体構造、活動と参加、環境因子）の必要度等について問う調査票について、回答者が電子化版又はテキスト版を選択して回答することとしました。それぞれの内容は以下の通りです。

＊回答者

該当する職種等（複数回答可）、教職員としての経験年数（講師等の経験を含む）、特別支援教育（特殊教育）経験年数、これまで関わってきた主な障害種別等（複数回答可）

＊回答の際に想定した事例

該当する在籍機関、訪問教育該当の場合は学習を行う場所（家庭、施設／病院）、寄宿舎利用の有無、該当する障害種別（複数回答可）

＊必要度等

- ・ 想定した事例の「学習上又は生活上の困難」を大まかに把握するための項目として必要度を尋ねました。回答には横幅 10 cm の VAS を用い、「必要でない（無視できる）」から「必要である」までの線分上に感覚的な回答の記入を求めました。
- ・ 該当項目が不要と思われる場合、項目の意味がわかりづらい場合、さらに詳しい下位項目を追加した方が良いと思う場合は、それぞれ該当する欄にチェックするように求めました。

(5) 調査票の授受

回答者（及び回答窓口担当者）に対して、手渡し、電子メールへ添付、郵送のいずれかの方法で調査票を届け、調査の趣旨及び方法について、直接或いは電話、電子メールにて説明しました。

※記入例： 各項目の視分よに、2が所以上フロットの「要」が記入されるとエラーメッセージが表示されますので確認してください。

コード	項目	解説	不要である	必要である	必要である	項目のつらさが	詳細な項目が必要である	視入力	未入力
			[0%]	/// ビジュアルアナログスケール ///	[100%]				
b110	身体機能	<input type="checkbox"/>							
b114	見当座機能	<input type="checkbox"/>							
	WHO(世界保健機関)のICF日本語版及び翻訳作業検討中のICF-CYによる各項目の説明がポップアップします。ただし「S」で始まる項目にはありません。								フロットされていません!
	幼児児童生徒の「学習上又は生活上の困難」を大まかに把握する際の項目として不要であるかどうかを記入する欄です。								2が所以上フロットされています!

図1 調査票

(6) 調査票等

調査票は、Microsoft社のexcelで作成した電子化版と紙ベースのテキスト版を用意し、回答者

がいずれかの回答方法を選択しました。電子化版では各項目の定義を知るために「解説」の欄にカーソルを置くと定義が表示されるように設定し、テキスト版は各項目の右側に同じく内容の定義を記載しました（もともと定義がない身体構造は除く。）（図1 調査票）。調査票とともに、本研究で想定する ICF-CY 活用の全体イメージ及び ICF-CY チェックリストの位置づけを説明する資料、調査の趣旨説明、回答方法等を説明する資料を併せて配布しました。調査時に使用した資料は以下の通りです。

- *資料1：ICF-CY を活用した「学習上又は生活上の困難」の大まかな把握と指導・支援の全体イメージと ICF-CY チェックリストの位置づけを表した図
- *資料2：ICF-CY チェックリスト項目選定用調査票（電子化版）表紙
- *資料3：ICF-CY チェックリスト項目選定用調査票（フェースシート）
- *資料4：（記入例）ICF-CY チェックリスト項目選定用調査票（電子化システム）
- *資料5：（記入例）ICF-CY チェックリスト項目選定用調査票（テキスト版）

（7）VAS の計測

10cm 幅の VAS について、電子化版については自動的に 2mm 毎の数値が出るように設定（回答者には見えない設定）し、テキスト版については、定規で 2mm 毎の計測をし、端数は切り上げました。本研究では必要の程度について VAS を用いて計測したため、VAS=2 以上が「必要の程度」の大きさを表し、VAS=0 は「不要」として分析を行いました。

（8）分析

分析については、次の手順で行いました。

第1に心身機能 83 項目、身体構造 40 項目、活動と参加 96 項目、環境因子 64 項目、合計 283 項目それぞれの VAS による「必要の程度」の中央値、および「不要」とされた度数を算出しました。

第2に、心身機能、身体構造、活動と参加、環境因子のそれぞれの項目群での「必要の程度」の中央値および「不要」の度数の平均値を算出しました。

第3に、チェックリスト試案の作成のための項目抽出として、それぞれの項目群からできるだけ均等に項目抽出を行うことができるように、各項目群内で「必要の程度」が一定以上高く、「不要」の度数が一定以上低い項目を抽出しました。項目を抽出する際の基準は、①項目の「必要の程度」の中央値が項目群の平均値よりも高い、②項目の「不要」の度数が項目群の「不要」の平均値よりも低い、のいずれかに該当する項目を抽出しました。すなわち、「必要の程度」が低く、「不要」と回答した割合の高かった項目が抽出から除外されることになります。

3 結果

【調査票の配布と回収状況】

計 85 の学校等及び本研究の研究協力者・本研究所の研究研修員を対象とした結果、72 の学校等から回答があり、合計 353 件の調査票を回収しました。うち、2 件が無効であり、最終的に 351 件が本研究の分析対象となりました。

【調査の結果】

心身機能 83 項目，身体構造 40 項目，活動と参加 96 項目，環境因子 64 項目の各項目群における VAS による「必要の程度」の中央値は，心身機能では 71.78，身体構造では 46.55，活動と参加では 81.59，環境因子では 59.84 となりました。「不要 (VAS=0)」の回答頻度の平均値は，心身機能では 62.36，身体構造では 121.98，活動と参加では 48.60，環境因子では 92.19 でした。各分類項目の結果は表 2～5 のとおりです。(表 1～4 は本稿の最後に添付予定)

各項目群で，①項目の「必要の程度」の中央値が項目群の平均値よりも高い，②項目の「不要」の度数が項目群の「不要」の平均値よりも低い，のいずれかに該当する項目を抽出した結果を表 5 に示しました。(表 5 は本稿の最後に添付予定) 心身機能では 83 項目中，「b117 知的機能」や「b210 視覚機能」，「b230 聴覚機能」など 54 項目が抽出されました。身体構造では 40 項目中，「s760 体幹の構造」や「s750 下肢の構造」，「s770 運動に関連したその他の筋骨格構造」など 24 項目が，活動と参加では 96 項目中，「d820 学校教育」や「d115 注意して聞くこと」，「d160 注意を集中すること」など 73 項目が，環境因子では 64 項目中，「e410 家族の態度」や「e310 家族」，「e320 友人」など 31 項目がそれぞれ抽出され，すべての項目群で計 182 項目が抽出されました。

4 考察

本研究では，ICF-CY 第 2 レベルの各項目について，VAS を用いて個々の「学習上又は生活上の困難」を大まかに把握する際の「必要の程度」についての評価を行い，「必要の程度」が高い項目および「不要」の割合が低い項目を抽出することで，特別支援教育における ICF-CY チェックリスト作成の手がかりとなる項目の抽出を検討しました。項目抽出の結果，心身機能では 54 項目，身体構造では 24 項目，活動と参加では 73 項目，環境因子では 31 項目，計 182 項目が抽出されました。182 項目という項目数は，抽出前の項目数 283 項目の約 64% に相当します。項目群ごとではそれぞれ，心身機能では約 65%，身体構造では 60%，活動と参加では約 76%，環境因子では約 48% となりました。

本研究での項目抽出の検討方法として，「必要の程度」と「不要」の 2 つの側面を併用しました。これは，本調査の対象者の属性，特に関わったことのある障害種別や現在の所属機関などが多岐に渡り，これが ICF-CY の各項目の「必要の程度」や「不要」と感じる程度に大きく影響を及ぼすと想定し，可能な限り汎用性の高いチェックリストの作成を進めるには，取りこぼしの少ない方法を選択することが最適と考えたためです。したがって今回抽出された 182 項目は比較的汎用性が高い項目であると考えられます。しかしながら，全体で 182 項目という項目数は，チェックリストとしての実用性からは課題が残されており，今後，更に多様な視点を導入することで項目を選定する必要があるといえます。

また，今後，有用性の高いチェックリストの開発へと展開していくためには，評価尺度についても検討すべき必要があります。ICF では各項目の状態・状況の評価するために，5 段階 (0 から 4 および詳細不明，非該当) の評価点が準備されています。しかし 5 段階の評価尺度では，中間点 (1 から 3) の評価が難しいことや，各段階の境界の判断が困難といった課題があります。本調査では新たな評価点の試みとして，VAS を用いました。評価点に VAS を用いることで，5 段階の評価点よりも詳細な測定が可能になるとともに，中間点の測定の困難さを取り除くことが

できると判断しました。加えて、詳細な測定が可能になることで、時系列による変化を追跡することが可能になると考えられ、チェックリストとしての有用性が高められることができると考えました。今後の評価点の課題として、ICF-CY の評価点と VAS の整合性や、VAS で評価した際の利点および欠点について検討する必要があるといえます。

5 まとめと今後の展望

今回、個々の「学習上又は生活上の困難」を把握することを目的とした ICF-CY チェックリストの開発に向け、以上のように 283 目中 182 項目を選定することができました。今後、実用性のある ICF-CY チェックリストの開発につなげるため、次のような作業に取り組む予定です。

(1) 項目の意味が分かりづらいとされた分類、詳細な下位項目が必要であるとされた分類項目、についての検討

今回は、調査内容のうち、VAS から得られた必要度、項目の必要の有無という 2 点から分類項目を選定するところまでを検討しましたが、さらに実用性のあるチェックリストにしていくためには、項目の意味が分かりづらいとされた項目、詳細な下位項目が必要であるとされた分類項目についてのそれぞれ検討し、適切なチェックリストのための分類項目の選定等を行う予定です。

(2) ICF-CY 及びチェックリスト等に造詣の深い者による検討

以上の手続きを経て選定得られたチェックリスト用の分類項目のセットについて、本稿の取り組みについても企画段階から参画した、ICF-CY、ICF チェックリストの実践的活用、発達検査等の開発手続きに精通した者 5 名（学校現場において、実践に基づいて ICF チェックリストの改編の取り組みを行ってきた者 2 名、高齢者用の環境因子コアセットの開発検討により学位を修めた者 1 名、発達検査の開発等に関わった経験がある者、筆者（筆頭））により、再度検討を行い、特別支援教育において、個々の「学習上又は生活上の困難さ」を把握するためのチェックリストのふさわしい分類項目のセットを確定し、ICF-CY チェックリスト（試案）を作成します。

(3) 試案の実証

開発した ICF-CY チェックリスト（試案）について、学校現場等で実際に活用してもらい、その結果を踏まえて、さらに使いやすいものを開発します。なお、実証の方法については現在検討中です。

文献

- 1) 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(2008). 課題別成果報告書(平成 18 年度～19 年度)「ICF 児童青年期バージョンの教育施策への活用に関する開発的研究」.
- 2) 川口ときわ (2008). 特別支援学校における ICF - CY 活用の実例 3 - 寄宿舎における ICF-CY 活用の試み -. 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所, 課題別成果報告書「ICF 児

童青年期バージョンの教育施策への活用に関する開発的研究」89-96.

- 3) 松村勘由・加福千佳子・徳永亜希雄・小林幸子 (2009). 特別支援学校における ICF 及び ICF-CY についての認知度・活用状況等に関する調査 調査のまとめ (速報).
http://www.nise.go.jp/PDF/H21kenkyu_ICFCY_chousamatome.pdf <アクセス日 2009 年 11 月 14 日>
- 4) 文部科学省 (2009) : 特別支援学校学習指導要領解説書自立活動編. 海文堂出版.
- 5) 西村修一, 池本喜代正, 下無敷順一他 (2009). ICF の評価に関する一考察—ICF をベースとしたチェックリストの作成と活用—, 宇都宮大学教育学部教育実践総合センター-紀要, (32), 199-205.
- 6) 大川弥生 (2007). 生活機能とは何か— ICF : 国際生活機能分類の理解と活用—. 東京大学出版会.
- 7) Simononsson, R. J. et al (2003). Applying the International Classification of Functioning, Disability and Health (ICF) to measure childhood disability. DISABILITY AND REHABILITATION, Vol. 25, No 11-12, 602-610.
- 8) Stucki G. et al (2003). Value and application of the ICF in rehabilitation medicine. DISABILITY AND REHABILITATION, Vol. 25, No 11-12, 628-634.
- 9) 障害者福祉研究会編集 (2002). ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版— (pp243). 中央法規.
- 10) 高田屋陽子 (2008). 特別支援学校での ICF-CY 活用の実際 1—児童生徒の全体像の整理と課題の明確化を中心に—. 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所, 課題別研究報告書「ICF 児童青年期バージョンの教育施策への活用に関する開発的研究」79-83.
- 11) 徳永亜希雄 (2005). ICF を活用するために (試案). 独立行政法人国立特殊教育総合研究所・世界保健機関 (WHO) 編著, ICF 活用の試み—障害のある子どもの支援を中心に—. 11-16. ジアース教育新社.
- 12) 上田敏, 大川弥生, 矢崎義雄 (2003). ICF の個別奨励での活用方法の明確化—ICF のコーディング手順に関する研究—. 平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金障害保健福祉総合研究事業「国際生活機能分類 (ICF) の活用のあり方に関する研究 (主任研究者 = 仲村英一)」報告書. 18-24.
- 13) 上田敏 (2005). 国際生活機能分類 ICF の理解と活用 人が「生きること」「生きることの困難 (障害)」をどうとらえるか. きょうされん.
- 14) WHO・独立行政法人国立特殊教育総合研究所訳 (2005). ICF チェックリスト (日本語訳版) バージョン 2. 1a—国際生活機能分類活用のための臨床用フォーム—. 独立行政法人国立特殊教育総合研究所・世界保健機関 (WHO) 編著, ICF 活用の試み—障害のある子どもの支援を中心に—. 17-46. ジアース教育新社.

表1 心身機能の結果

ICF-CY 心身機能 項目	必要の程度	不要
b110意識機能	81.00	58
b114見当識機能	86.00	34
b117知的機能	98.00	14
b122全般的な心理社会的機能	87.00	15
b125素質と個人特有の機能	80.00	23
b126気質と人格の機能	83.00	20
b130活力と欲動の機能	82.00	21
b134睡眠機能	82.00	29
b140注意機能	92.00	12
b144記憶機能	92.00	12
b147精神運動機能	82.00	19
b152情動機能	90.00	9
b156知覚機能	92.00	18
b160思考機能	82.00	29
b163基礎的認知機能	88.00	18
b164高次認知機能	84.00	31
b167言語に関する精神機能	93.00	22
b172計算法機能	81.00	35
b176複雑な運動を順序を立てて行う精神機能	72.00	44
b180自己と時間の経験の機能	76.00	33
b210視覚機能	94.00	33
b215目に付属する構造の機能	73.00	71
b220目とそれに付属する構造に関連した感覚	53.00	77
b230聴覚機能	94.00	36
b235前庭機能	84.00	43
b240聴覚と前庭の機能に関連した感覚	58.00	74
b250味覚	70.00	50
b255嗅覚	72.00	51
b260固有受容覚	76.00	36
b265触覚	86.00	32
b270温度やその他の刺激に関連した感覚機能	76.00	51
b280痛みの感覚	78.00	41
b310音声機能	88.00	49
b320構音機能	86.00	52
b330音声言語(発話)の流暢性とリズムの機能	76.00	55
b340代替性音声機能	72.00	58
b410心機能	62.00	80
b415血管の機能	50.00	105
b420血圧の機能	52.00	98
b430血液系の機能	50.00	106
b435免疫系の機能	57.00	88
b440呼吸機能	76.00	73
b445呼吸筋の機能	58.00	93
b450その他の呼吸機能	54.00	90
b455運動耐容能	61.00	56
b460心血管系と呼吸器系に関連した感覚	54.00	94
b510摂食機能	93.00	55
b515消化機能	66.00	91
b520同化機能	50.00	117
b525排便機能	82.00	52
b530体重維持機能	70.00	57
b535消化器系に関連した感覚	56.00	89
b540全般的代謝機能	50.00	109
b545水分・ミネラル・電解質バランスの機能	48.00	111
b550体温調節機能	84.00	49
b555内分泌腺機能	50.00	103

b560標準的な成長維持機能	52.00	94
b610尿排泄機能	66.00	89
b620排尿機能	80.00	67
b630排尿機能に関連した感覚	64.00	98
b640性機能	50.00	81
b650月経の機能	52.00	98
b660生殖の機能	40.00	118
b670性と生殖の機能に関連した感覚	40.00	115
b710関節の可動性の機能	92.00	40
b715関節の安定性の機能	86.00	51
b720骨の可動性の機能	84.00	64
b730筋力の機能	86.00	49
b735筋緊張の機能	88.00	57
b740筋の持久性機能	81.00	72
b750運動反射機能	78.00	63
b755不随意運動反応機能	84.00	65
b760随意運動の制御機能	86.00	43
b761自発的運動	80.00	52
b765不随意運動の機能	78.00	66
b770歩行パターン機能	84.00	60
b780筋と運動機能に関連した感覚	74.00	73
b810皮膚の保護機能	53.00	92
b820皮膚の修復機能	50.00	105
b830その他の皮膚の機能	52.00	83
b840皮膚に関連した感覚	54.00	90
b850毛の機能	34.00	135
b860爪の機能	28.00	135

注 「必要の程度」は各項目に対する中央値を示し、「不要」は各項目に対する度数を示しています。

表2 身体構造の結果

ICF-CY 身体構造 項目	必要の程度	不要
s110脳の構造	58.00	89
s120脊髄と関連部位の構造	52.00	117
s130髄膜の構造	44.00	131
s140交感神経系の構造	48.00	116
s150副交感神経系の構造	48.00	117
s210眼窩の構造	37.00	131
s220眼球の構造	46.00	125
s230目の周囲の構造	38.00	133
s240外耳の構造	47.00	121
s250中耳の構造	50.00	115
s260内耳の構造	50.00	116
s310鼻の構造	50.00	116
s320口の構造	54.00	102
s330咽頭の構造	52.00	113
s340喉頭の構造	52.00	112
s410心血管系の構造	46.00	129
s420免疫系の構造	50.00	121
s430呼吸器系の構造	54.00	114
s510唾液腺の構造	46.00	132
s520食道の構造	50.00	127
s530胃の構造	48.00	125
s540腸の構造	44.00	125
s550膵臓の構造	30.00	142
s560肝臓の構造	30.00	141
s570胆嚢と胆管の構造	28.00	145
s580内分泌腺の構造	30.00	137
s610尿路系の構造	48.00	123
s620骨盤底の構造	48.00	128
s630生殖系の構造	32.00	138
s710頭頸部の構造	50.00	120
s720肩部の構造	52.00	116
s730上肢の構造	66.00	94
s740骨盤部の構造	54.00	101
s750下肢の構造	74.00	83
s760体幹の構造	74.00	81
s770運動に関連したその他の筋骨格構造	68.00	91
s810皮膚の各部の構造	44.00	131
s820皮膚の腺の構造	28.00	142
s830爪の構造	22.00	146
s840毛の構造	20.00	153

注 「必要の程度」は各項目に対する中央値を示し、「不要」は各項目に対する度数を示しています。

表3 活動と参加の結果

ICF-CY 活動と参加 項目	必要の程度	不要
d110注意して視ること	94.00	17
d115注意して聞くこと	96.00	11
d120その他の目的のある感覚	88.00	35
d130模倣	93.00	29
d131物品を使うことを通しての学習	94.00	31
d132情報の獲得	92.00	30
d133言語の習得	92.00	24
d134付加的言語の習得	90.00	33
d135反復	86.00	31
d137概念の習得	92.00	27
d140読むことの学習	94.00	36
d145書くことの学習	92.00	31
d150計算の学習	90.00	34
d155技能の習得	92.00	19
d160注意を集中すること	96.00	10
d161注意を向けること	96.00	10
d163思考	92.00	19
d166読むこと	94.00	36
d170書くこと	92.00	32
d172計算	90.00	37
d175問題解決	92.00	33
d177意思決定	96.00	16
d210単一課題の遂行	90.00	21
d220複数課題の遂行	88.00	29
d230日課の遂行	92.00	27
d240ストレスとその他の心理的要求への対処	88.00	25
d250自分の行動の管理	90.00	23
d310話し言葉の理解	96.00	16
d315非言語的メッセージの理解	94.00	20
d320公式手話によるメッセージの理解	54.00	91
d325書き言葉によるメッセージの理解	84.00	46
d330話すこと	92.00	38
d331言語以前の発語(喃語の表出)	88.00	65
d332歌うこと	74.00	48
d335非言語的メッセージの表出	90.00	37
d340公式手話によるメッセージの表出	50.00	105
d345書き言葉によるメッセージの表出	84.00	45
d350会話	94.00	33
d355ディスカッション	72.00	51
d360コミュニケーション用具および技法の利用	88.00	31
d410基本的な姿勢の変換	94.00	41
d415姿勢の保持	94.00	31
d420乗り移り(移乗)	86.00	66
d430持ち上げることと運ぶこと	82.00	57
d435下肢を使って物を動かすこと	79.00	54
d440細かな手の使用	90.00	33
d445手と腕の使用	90.00	34
d446細やかな足の使用	84.00	53
d450歩行	92.00	59
d455移動	90.00	47
d460さまざまな場所での移動	88.00	56
d465用具を用いての移動	86.00	55
d470交通機関や手段の利用	88.00	32
d475運転や操作	72.00	69
d480交通手段として動物に乗ること	25.00	174
d510自分の身体を洗うこと	88.00	43
d520身体各部の手入れ	85.00	35
d530排泄	94.00	30
d540更衣	92.00	39

d550	食	96.00	31
d560	飲	96.00	38
d570	健康に注意	88.00	27
d571	安全に注意	92.00	28
d610	住居の入手	39.00	137
d620	物品とサービスの入手	62.00	83
d630	調理	66.00	60
d640	調理以外の家事	66.00	48
d650	家庭用品の管理	54.00	74
d660	他者への援助	68.00	59
d710	基本的な対人関係	95.00	15
d720	複雑な対人関係	84.00	31
d730	よく知らない人との関係	80.00	31
d740	公的な関係	82.00	39
d750	非公式な社会的関係	78.00	30
d760	家族関係	94.00	21
d770	親密な関係	82.00	61
d810	非公式な教育	70.00	45
d815	就学前教育	86.00	62
d816	就学前教育時の生活や課外活動	84.00	56
d820	学校教育	98.00	14
d825	職業訓練	84.00	65
d830	高等教育	70.00	90
d835	学校生活や関連した活動	82.00	32
d840	見習研修(職業準備)	70.00	88
d845	仕事の獲得・維持・終了	72.00	81
d850	報酬を伴う仕事	64.00	91
d855	無報酬の仕事	56.00	84
d860	基本的な経済的取引	74.00	85
d865	複雑な経済的取引	48.00	130
d870	経済的自給	48.00	119
d880	遊びへの取組	90.00	18
d910	コミュニティライフ	62.00	70
d920	レクリエーションとレジャー	82.00	19
d930	宗教とスピリチュアリティ	19.00	151
d940	人権	62.00	85
d950	政治活動と市民権	50.00	128

注 「必要の程度」は各項目に対する中央値を示し、「不要」は各項目に対する度数を示しています。

表4 環境因子の結果

ICF-CY 環境因子 項目	必要の程度	不要
e110個人消費用の製品や物質	58.00	88
e115日常生活における個人用の製品と用具	72.00	56
e120個人的な屋内外の移動と交通のための製品と用具	72.00	69
e125コミュニケーション用の製品と用具	78.00	55
e130教育用の製品と用具	80.00	51
e135仕事用の製品と用具	56.00	95
e140文化・レクリエーション・スポーツ用の製品と用具	63.00	70
e145宗教とスピリチュアリティ儀式用の製品と用具	15.00	159
e150公共の建物の設計・建設用の製品と用具	50.00	115
e155私用の建物の設計・建築用の製品と用具	50.00	117
e160土地開発関連の製品と用具	18.00	173
e165資産	30.00	141
e210自然地理	35.00	151
e215人口・住民	34.00	150
e220植物相と動物相	28.00	149
e225気候	52.00	112
e230自然災害	50.00	136
e235人的災害	41.00	142
e240光	54.00	106
e245時間的变化	52.00	101
e250音	74.00	64
e255振動	50.00	100
e260空気の質	48.00	125
e310家族	94.00	22
e315親族	82.00	32
e320友人	88.00	20
e325知人・仲間・同僚・隣人・コミュニティの成員	86.00	30
e330権限を持つ立場にある人々	69.00	88
e335下位の立場にある人々	52.00	110
e340対人サービス提供者	82.00	55
e345よく知らない人	53.00	82
e350家畜・家禽など	38.00	123
e355保健の専門職	84.00	49
e360その他の専門職	80.00	53
e410家族の態度	94.00	16
e415親族の態度	84.00	37
e420友人の態度	84.00	32
e425知人・仲間・同僚・隣人・コミュニティの成員の態度	78.00	47
e430権限をもつ立場にある人々の態度	70.00	81
e435下位の立場にある人々の態度	54.00	104
e440対人サービス提供者の態度	76.00	69
e445よく知らない人の態度	54.00	96
e450保健の専門職者の態度	78.00	62
e455その他の専門職者の態度	77.00	70
e460社会的態度	54.00	98
e465社会的規範・慣行・イデオロギー	50.00	116
e510消費財生産のためのサービス・制度・政策	48.00	132
e515建築・建設に関連するサービス・制度・政策	32.00	154
e520土地計画に関連するサービス・制度・政策	26.00	161
e525住宅供給サービス・制度・政策	50.00	125

e530公共事業サービス・制度・政策	52.00	106
e535コミュニケーションサービス・制度・政策	54.00	80
e540交通サービス・制度・政策	64.00	78
e545市民保護サービス・制度・政策	54.00	101
e550司法サービス・制度・政策	50.00	117
e555団体と組織に関するサービス・制度・政策	48.00	130
e560メディアサービス・制度・政策	52.00	101
e565経済に関するサービス・制度・政策	52.00	121
e570社会保障サービス・制度・政策	76.00	89
e575一般的な社会的支援サービス・制度・政策	80.00	49
e580保健サービス・制度・政策	80.00	48
e585教育と訓練のサービス・制度・政策	80.00	55
e590労働と雇用のサービス・制度・政策	63.00	109
e595政治的サービス・制度・政策	48.00	127

注 「必要の程度」は各項目に対する中央値を示し、「不要」は各項目に対する度数を示しています。

表5 抽出された分類項目の一覧

心身機能	身体構造	活動と参加	環境因子
b110意識機能	s110脳の構造	d110注意して観ること	e110個人消費用の製品や物質
b1141見当識機能	s120脊髓と関連部位の構造	d115注意して聞くこと	e115日常生活における個人用の製品と用具
b117知覚機能	s140交感神経系の構造	d120その他の目的のある感覚	e120個人的な屋内外の移動と交通のための製品と用具
b122全般的な心理社会的機能	s150副交感神経系の構造	d130模倣	e125コミュニケーション用の製品と用具
b125素質と個人特有の機能	s240外耳の構造	d131物品を使うことを通じての学習	e130教育用の製品と用具
b126気質と人格の機能	s250中耳の構造	d132情報の獲得	e140文化・レクリエーション・スポーツ用の製品と用具
b130活力と欲動の機能	s260内耳の構造	d133言語の習得	e250音
b134睡眠機能	s310鼻の構造	d134付加的言語の習得	e310家族
b140注意機能	s320口の構造	d135反復	e311親族
b144記憶機能	s330咽頭の構造	d137概念の習得	e320友人
b147精神運動機能	s340喉頭の構造	d140読むことの学習	e325知人・仲間・同僚・隣人・コミュニティの成員
b152行動機能	s420免疫系の構造	d145書くことの学習	e330権限を持つ立場にある人々
b156知覚機能	s430呼吸器系の構造	d150計算の学習	e340対人サービス提供者
b160思考機能	s520食道の構造	d155技能の習得	e345よく知らない人
b163基礎的認知機能	s530胃の構造	d160注意を集中すること	e355保健の専門職
b164高次認知機能	s610尿路系の構造	d161注意を向けること	e360その他の専門職
b167言語に関する精神機能	s620背底底の構造	d163思考	e410家族の態度
b172計算機能	s710頭頸部の構造	d166読むこと	e411親族の態度
b176複雑な運動を順序立てて行う精神機能	s720肩部の構造	d170書くこと	e420友人の態度
b180自己と時間の経験の機能	s730上肢の構造	d172計算	e425知人・仲間・同僚・隣人・コミュニティの成員の態度
b210視覚機能	s740骨盤部の構造	d175問題解決	e430権限をもつ立場にある人々の態度
b215目に付属する構造の機能	s750下肢の構造	d177意思決定	e440対人サービス提供者の態度
b230聴覚機能	s760体幹の構造	d210単一課題の遂行	e450保健の専門職者の態度
b235前庭機能	s770運動に関連したその他の筋骨格構造	d220複数課題の遂行	e455その他の専門職者の態度
b250味覚		d230日課の遂行	e535コミュニケーションサービス・制度・政策
b255嗅覚		d240ストレスとその他の心理的要求への対処	e540交通サービス・制度・政策
b260固有受容覚		d250自分の行動の管理	e570社会保険サービス・制度・政策
b265触覚		d310話し言葉の理解	e575一般的な社会的支援サービス・制度・政策
b280温度やその他の刺激に関連した感覚機能		d315非言語的メッセージの理解	e580保健サービス・制度・政策
b310痛みの感覚		d325書き言葉によるメッセージの理解	e585教育と訓練のサービス・制度・政策
b320音声機能		d330話すこと	e590労働と雇用のサービス・制度・政策
b330音声言語(会話)の流暢性とリズムの機能		d331言語以前の発語(喃語の表出)	
b340代数的音声機能		d332歌うこと	
b440呼吸機能		d335非言語的メッセージの表出	
b455運動耐容能		d345書き言葉によるメッセージの表出	
b510摂食機能		d350芸芸	
b525排便機能		d360コミュニケーション用具および技法の利用	
b530体重維持機能		d410基本的な姿勢の変換	
b550体温調節機能		d415姿勢の保持	
b620排尿酸機能		d420乗り移り(移乗)	
b710関節の可動性の機能		d430持ち上げることと運ぶこと	
b715関節の安定性の機能		d440細かな手の使用	
b720腕の可動性の機能		d445手と腕の使用	
b730筋力の機能		d446細やかな足の使用	
b733筋緊張の機能		d450歩行	
b740筋の持久性機能		d455移動	
b750運動反射機能		d460さまざまな場所での移動	
b755不随意運動反応機能		d465用具を用いての移動	
b760随意運動の制御機能		d470交通機関や手段の利用	
b761自発的運動		d510自分の身体を洗うこと	
b765不随意運動の機能		d520身体各部の手入れ	
b770歩行パターン機能		d530排泄	
b780筋と運動機能に関連した感覚		d540更衣	
		d550食べること	
		d560飲むこと	
		d570健康に注意すること	
		d571安全に注意すること	
		d640調理以外の家事	
		d710基本的な対人関係	
		d730よく知らない人との関係	
		d740公的な関係	
		d750非公式な社会的関係	
		d760家族関係	
		d770親密な関係	
		d810非公式な教育	
		d815就学前教育	
		d816就学前教育時の生活や課外活動	
		d820学校教育	
		d825職業訓練	
		d835学校生活や関連した活動	
		d880遊びへの取組	
		d920レクリエーションとレジャー	